

# 医科大 どおり



2024年  
第29巻 第3号

## CONTENTS

- 特定行為研修修了生のご紹介
- 認知症センター紹介
- スペシャリスト紹介 ソーシャルワーカー  
高校生による「ふれあい看護体験」
- 防災講習会・災害訓練が開催されました
- 研修医・指導医紹介
- はじめまして
- 患者さんからのご意見

# 特定行為研修修了生のご紹介

## ■概要

特定行為とは、あらかじめ医師が定めた手順書により、特定行為研修を修了した看護師(以下「特定看護師」)が実施する高度かつ専門的な行為です。特定看護師には質の高い医療を迅速に提供する役割が期待されています。

## ■本学の特定行為研修

本学は2020年4月から特定行為研修を行う指定研修機関として術中麻酔管理コース、区分選択コースを設け現在、人工呼吸器からの離脱、橈骨動脈ラインの確保等、10行為を実施しています。

## ■本学の特定看護師

本学の研修機関を修了した特定看護師は6名在籍し、特定行為研修に加え認定看護師の資格を持つ看護師は5名在籍しています。特定看護師はネームプレートにバッジをつけ、日々高度な実践を行っています。今回は特定看護師として活躍する丸山主任看護師、甘谷主任看護師を紹介します。



特定看護師バッジ

## 丸山 喜広 主任看護師

私は手術室で勤務しており、2020年度に術中麻酔管理コースを受講しました。手術室で主に全身麻酔中の人工呼吸器の設定や輸液の管理を行っています。人工呼吸器の設定は、手術の進行に合わせて設定変更を行い患者への負担軽減に努めています。また手術の侵襲度や出血しやすい瞬間に応じて輸液量を調整しています。手術中の状態安定はもちろんのこと、術後の回復に影響を及ぼさないよう特定行為を実施しています。また、夜間や休日の緊急手術では医師、看護師ともに対応が重なることがあります。それぞれの役割を熟知している特定看護師が特定行為を行うことで、チームとしてより安全な手術が提供できると考えます。



## 甘谷 顕一郎 主任看護師

私は救急医療センターに勤務しており、2022年に区分選択コースを受講しました。救急医療センターでは主に動脈からの採血や輸液の管理を行っています。救急では、瞬時に状態を判断し対応することが求められます。医師が必要な処置を迅速に行えるよう動脈から採血を行い、情報を共有しています。また、私はRRS(迅速対応システム)のメンバーであり、患者さんの急変を未然に防ぐ活動を行っています。起動の際には、血管エコーを行い脱水状態になっていないかを判断し、必要であれば輸液量の調整を行います。このように早期に介入することで、救命に貢献することが可能になります。今後も患者さんが安心して通院、入院できるよう尽力していきたいと考えています。



# 認知症センター紹介

## ◆私は名もない花なの

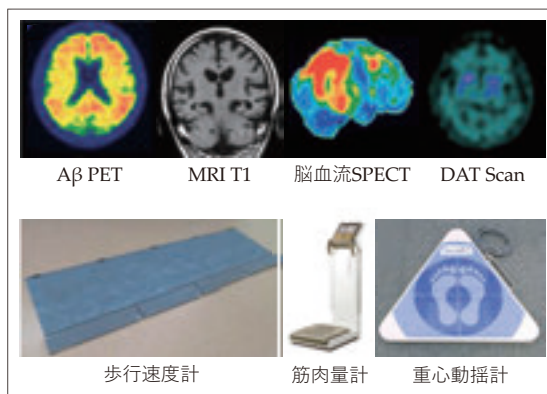
金沢医科大学病院認知症センターは、病院中央棟の完成とともに2017年7月1日に開設されました。認知症を心臓病・高血圧・糖尿病などと同じく、万人の大輪の人生に起こりうる生活習慣病の延長と捉え、早期診断・早期支援のための体制整備、認知症進行予防に重きを置き、住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けられることを目標にしています。

## ◆多職種チームで診る

認知症専門医・老年精神専門医・認知症サポート医など専門医師ばかりでなく、老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師、公認心理師、精神保健福祉士、社会福祉士、薬剤師など、さまざまな専任スタッフがチームで認知症の診療・生活支援に取り組んでいます。金沢医科大学病院が誇る各種画像診断とともに、センター内には歩行速度計、四肢筋肉量計、重心動揺計、握力計を揃えており、認知症とともに進行するフレイル、サルコペニアについても都度評価することができます。毎週月曜～金曜 9:00-15:00 に診察を行っています。

## ◆孤立には連携で対応

認知症例紹介元の診療所には認知症連携シート(もの忘れ外来結果報告書)により診断名、心理・画像・臨床検査結果、治療方針などの情報が返書で速やかに共有されています。鑑別診断結果が治療可能な認知症と分かれば、紹介元にご連絡するとともに、認知症センターが起点となり脳神経外科(硬膜下血腫、脳腫瘍)、脳神経内科(正常圧水頭症、癲癇)、高齢医学科(脳梗塞)、神経科精神科(うつ)など関連各科と密接に連携しています。また適応例には放射線科と連携しアミロイド関連画像異常(ARIA)を評価しながら抗アミロイドβ抗体治療薬による点滴治療提供を準備しています。さらに認知症入院例には各病棟と緊密に連絡を取り、認知症ケアチームによる多職種ケアアウンドが毎週行われています。日常生活自立度Ⅲ以上(常に見守りが必要)の認知症入院例には月曜・木曜の週二日、院内デイケアを開催しています。また内灘町行政とは認知症初期集中支援チームの協定を結び、家族の訴えなどにより認知症が疑われる地域在住高齢者をセンタースタッフが訪問し、医療や介護に繋げる役割を担っています。



## ◆お会いできて嬉しかったです

年々歳々進歩し高みを目指す金沢医科大学病院臨床各科の先進医療が経糸(たていと)であるならば、地域医療、地域介護、病院多種職、各科、各病棟を杼(ひ:シャトル)で紡ぐ認知症センターの医療は緯糸(よこいと)に例えることができます。自立生活終焉の刹那に当センターを訪問され、これまでの生き様や家族への思いを紡ぐ物語は、それぞれの人生に輝きあれと若い医療人の心の琴線に触れ、金沢医科大学病院のチーム医療・地域連携の色柄を織りなしています。

記:認知症センター センター長 森本茂人

# スペシャリスト紹介 ソーシャルワーカー

## ◆ソーシャルワーカーとは

患者さんご本人やご家族が抱えておられる生活上および治療上の不安や心配に対して、改善や解決に向けて一緒に考えていく相談員です。ソーシャルワーカーは医療チームの一員として医師や看護師などのさまざまな院内スタッフと協働し、社会福祉の観点から社会的・心理的・経済的な問題の相談を受けています。また、地域の医療・福祉機関との連携をとりあい、在宅療養や社会復帰への支援も行っています。

病院1号棟1階の患者相談支援窓口にてソーシャルワーカー7人、看護師1人、事務員1人が勤務しており、平日8時45分から17時まで、土曜日8時45分から12時45分まで窓口を開けています。

## ◆相談内容

高額治療や入院中などの医療費について、自宅での生活を支える介護サービスや障害福祉サービスについてのご相談を多くいただいています。ご相談の内容によっては、看護師、薬剤師、栄養士などの専門職種へお繋ぎすることもあります。患者相談支援窓口はがん相談支援センターも兼ねており、がんに関するご相談もお聞きしています。

〈皆さまへメッセージ〉

ソーシャルワーカーはおひとりおひとりに対する支援を大切にしており、生活上や治療上の心配ごとだけでなく、さまざまな相談に応じています。患者相談支援窓口では個室を設けており、相談の内容はご本人の了承なしに漏らすことはございません。相談料はかかりませんので、お気軽にご相談ください。



# 高校生による「ふれあい看護体験」

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、昭和40年から国際看護協会（本部：ジュネーブ）は「国際看護の日」を5月12日に決めました。日本においては、看護の心、ケアの心を国民の一人一人が育むきっかけとなるよう、旧厚生省により平成2年に「看護の日」が制定され多彩なイベントが行われました。石川県では平成3年より、県民の看護に対する関心と理解を深めるための事業（主催：石川県、石川県看護協会）として「ふれあい看護体験」を展開しました。コロナ禍でやむなく3年間休止しましたが、今年度、再開となりました。本院においても10月14日（土）、11月11日（土）（午前9時～16時）に開催し、看護師や助産師を希望する石川県内の高校生10名が参加しました。参加者は白衣に着替え、川原範夫病院長より辞令を交付された後、中村真寿美看護部長から「看護師の仕事」について講義を受け、希望部署を見学（救命救急センター、小児病棟、産科病棟、中央手術部、特別個室）し、一般病棟において現場の看護師と共に、正しい手洗い、手指消毒、足浴や車椅子の移送などを体験しました。体験後、「看護師の患者さんへの接し方がとても優しく、思いやりがあり素敵な仕事だなと感じた」「看護師になりたい気持ちが強くなった」などの感想を笑顔で楽しそうに語っていました。「ふれあい看護体験」は将来の看護の職業をイメージする良い機会となったと思います。



# 防災講習会・災害訓練が開催されました

当院では、毎年地震や火事に備えるため防災講習会・災害訓練を実施しております。

令和5年8月17日に防災講習会を、令和5年9月6日に災害訓練を第1次訓練、第2次訓練、夜間の出火を想定した時間外訓練の3回に分けて実施しました。

防災講習会では、実際に消火器を用いた消火訓練や内灘町消防本部から講師の方をお招きして、「災害時における心構えについて」と題して講演を行っていただきました。また、当院看護部、設備課から職員全体に向けて院内の避難器具や防災設備についての講演がありました。

第1次訓練では、地震発生後に院内で火災が発生したとの想定で、各部署・フロアごとに出火場所を設定し、身体防御、通報、初期消火、模擬患者の避難誘導等の訓練を行いました。また、病院1号棟の防災センター横に設置された災害対策本部で、病院各部署のチーフによる被害状況、避難状況等の報告訓練が行われました。

第2次訓練では、病院1号棟4階東病棟のダイニングで火災が発生したとの想定で、発煙筒を点火し、防火扉及び防火シャッターも閉じ、有事により近い状況で、身体防御、通報、初期消火、模擬患者の避難誘導、実際に放水を行う消火活動等の訓練を行いました。

また、今年度は金沢市消防局から、はしご車が出動し、高層病棟から患者さんを救出する訓練を第2次訓練と並行して実施しました。

時間外訓練では、職員が手薄な夜間に病院1号棟6階西病棟のダイニングで火災が発生したとの想定で、通報連絡、初期消火、患者さんの避難誘導等の訓練を行いました。

災害訓練時に、ご入院、ご来院されていた皆様、ご理解ご協力をいただきありがとうございました。災害時に患者さんの安全を確保できるよう、今後も防災体制の強化に努めてまいります。



# 研修医・指導医紹介

## ◆研修医紹介

●2年次研修医 村上 宗駿(むらかみ むねとし) ●北海道出身

### 【医師を志したきっかけ】

「大切な笑顔を守りたい」

これが、私が医師を志したきっかけです。長寿の国となった日本において、健康問題は避けられない問題となっています。痛み・苦痛がある状態で笑顔を作ることはできるでしょうか?漠然としたきっかけではありますが、研修医として働いている現在、退院の際に笑顔で帰っていく患者さんを見ると、医師になって良かったと心から思います。今後も、一人でも多くの患者さんを笑顔にできるよう、技術の向上とともに皆様に寄り添った医療を心がけていきたいと思っています。



### 【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

研修医は、多くの科をローテートするため、1つの科の研修期間は、1～2ヶ月と短くなってしまいます。しかし、研修が修了した科の患者さんと院内でお会いした時に、元気な姿で「村上先生!」と覚えてくださっていることがありました。その際、短い期間ではあっても、自身の診療が、患者さんにとって印象に残るものであったのだと喜びを感じました。今後、研修医が修了した後も、初心を忘れないよう精進していきたいと思っています。

## ◆指導医紹介

●循環器内科 楠目 祐基(くずめ ゆうき)

### 【最近の研修医の指導について感じていること】

近年の医学の進歩は目覚ましく、数年前の知識が最新の知見で無くなることも珍しくなくなっています。研修医を指導する中で自分の持っている知識がup dateされることもあり、研修医指導の奥深さをますます感じています。

循環器内科の領域では専門性の細分化が進んでおり、循環器内科学全般の理解が難しくなっています。最近の研修医指導では、彼、彼女らが心臓を取り巻く問題の背景から理解できるよう手助けすることに注力しています。



### 【自分の研修医時代との違い】

自分が研修医であった頃に比べて、現在の研修医は履修、習得しなければならない必修科目や手技が増えており、より臨床現場での活躍を期待されているのだと思います。また、現在推進されている医師の働き方改革の一環で、研修医の勤務状況は改善されてきており、仕事によって生活の質を損ないすぎない配慮がされつつあることは非常に好ましく感じています。

新しい潮流の中で育った研修医たちがこの金沢医科大学でより活躍していくことを楽しみにしています。



## はじめまして



妊娠・出産・育児と全てが初めての体験に加え、男女の双子ということもあり、不安も喜びもひととき大きなものでした。通院中から子ども達の成長と一緒に楽しんで、出産後には私自身の体のケアや子ども達との今後の生活についてのアドバイス等、本当に手厚い温かな出産を迎えさせていただきました。皆様のおかげで大切な家族が増え、賑やかな日々を過ごしています。大変お世話になりました。

- おとうさん 高田 龍輔さん
- おかあさん 高田 早希さん
- 赤ちゃん 高田 結月(たかた ゆづき)ちゃん  
高田 暁翔(たかた あきと)くん  
2023年11月14日生まれ



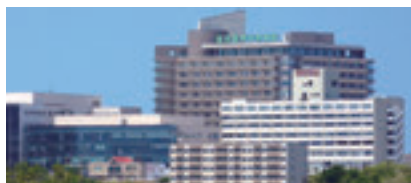
## 患者さんからの ご意見



内灘町在住です。緊急入院、夜中にオペ、元気を取り戻すことができました。ドクターの方ナースの方清掃の方多くのみなさんに支えられ無事に退院の予定です。今回の入院は4回目です。内灘町の発展は金沢医科大学病院のおかげです。本当に感謝の言葉しかありません。元気を取り戻して大変うれしいです。

## 病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として次のような病院を目指します



- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します
- 新しい医療の研究・開発を推進します
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します

### 病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への“説明と同意”を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 動き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

### 患者さんの権利

当院は、医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 人間としての尊厳や人権が尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- 十分な説明と、情報提供を受けたうえで、ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 治療のどの段階においてもセカンドオピニオン（他の医療機関の医師の意見）を求めることができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

### 患者さんへのお願い

当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

[連絡先] TEL(076)286-3511 FAX(076)286-2372

ホームページアドレス <http://www.kanazawa-med.ac.jp> / Eメールアドレス [kanrika@kanazawa-med.ac.jp](mailto:kanrika@kanazawa-med.ac.jp)